時事新報

明治十八年十一月四日(水曜日)　癸亥
舊乙酉九月廿八日
日出午前六時二十六分　日入午後五時一分
月出午前三時二十三分　月入午後三時三十五分
滿潮午前二時零五分　午後三時三十六分
(西曆一千八百八十五年)

一枚金三錢○一箇月前金六十五錢○三箇月前金一圓八十錢○六箇月前金三圓四十錢○一箇年前金六圓五十錢○郵稅一箇月金廿六錢一箇年金三圓十二錢○左ニ揭クル各地ニ於テハ遞送無料ニテ配達致候

東京　橫濱　橫須賀　從神奈川至小田原驛　函根七湯　大坂
京都　大津　神戸　尾ノ道　笠岡　岡山　廣島
和歌山　德島　高知　下ノ關　名古屋　岐阜　岡崎　豐橋
四日市　津　松坂　山田　仙臺　福島　二本松　石ノ卷
函館　青森　弘前　宇都宮　高崎　八王子　千住　草加
越ケ谷　粕壁　杉戸　幸手　久喜　關宿

其他右地方便宜ノ場所ハ同シク遞送料不申受候

時事新報廣告料(前金)一行ニ付

一行廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上十五日迄	十六日以上卅日迄	卅一日以上
自一行至十行	十錢	八錢	七錢二厘	六錢八厘	六錢四厘
自十一行至三十行	九錢	七錢	六錢三五	五錢九五	五錢六厘
自卅一行至五十行	八錢	六錢五厘	五錢八五	五錢五厘	五錢二厘
五十行以上	七錢	六錢	五錢四厘	五錢一厘	四錢八厘

時事新報

優勝劣敗恐るゝに足らず

Ｄ.Ｈ.氏の名を以て投書せられたる「開國雜居一日も遲疑す可らず」の一編は最も我輩の心を獲たるものにして之を十月二十二日の時事新報に記したりしが今これ繙き讀み聊か鄙見を陳べて氏幷に世間大方の教を乞はんとす優勝劣敗は天の約束なれば此約束として實際に行はれしめ心身の力を致して強者優者と競爭し以て弱劣を變して強優に至らしむるの方便は開國雜居に在りとの卓言我輩の敬服して異議なき所のものありと雖ども今一歩を進めて考れば開國雜居以て優勝劣敗の緒と開くときは我日本國民も必ずしも劣位に居る者にあらず或は其心身の實力、平均の上に擢でゝ素より既に優位を占る者も多かるべし今虛心平氣に歐米文明の人と見るに其智德共に甚だ高尚なる人物あり我輩は常に敬愛欽慕して止まざる所なきにも又一方より其裏面を吟味すれば取るに足らざる無智無力の輩も甚だ少なからずして其卑屈醜体は我輩の親しく見聞する所のものなり日本國人悉皆無智無德に非ず歐米國人悉皆有智有德に非ず然るに世界の評論に任すれば歐米と最上の文明と稱して我日本をば其亞流に位せしむるは何ぞや吾々日本人が今日尚ほ國を鎖して外國の人に遠ざかり彼れに對して果して其優劣如何を知らしむるに由なければなり之を知らざる者は之を評するに由なし漫然第二等の地位に置かるゝも是非なき次第なりと云ふべし或は又然らずして事の實際を吟味し日本人は實に劣者多く歐米人は實に優者多くしてその割合の數に由りて双方の國に優劣の評を下したるものなりと云ふ斯の如きは則ち日本國中の優者こそ誠に不幸なりと云はざるを得ず日本の優者は同胞の衆劣者と雜居するが故に劣名を蒙り歐米の劣者は其優者に混同するが故に優名を博するとは事の公平なるものに非ざるを喩へば米商會社にて米を評價して奥州米と武州米と價格を異にするが如し武州は上米にして奥州の上に位すべしと雖ども是れは唯俵の全體に就て價を評したるまでにして精密なるものに非ず若しも其俵を開て米の粒々を吟味するときは奥州米中に上米は甚だ少なからずして武州に上米中に下米は混ずること夥多しかるべし斯の如く同じ俵の中に上米と下米と相混雜して奥州の上米は俵全体の下米に由りて下米の相場と立てられ武州の下米は上米に混ずるが故に上米の名譽を得たり奥州の上米のために考れば誠に不仕合なる次第にして若しも是れが武州の俵の中に在らんならば其俵の中にても上等の位に居り同俵の惡米共と目下に見下して得々たるべきに其の然るを得ざるは俵と名くる圍の中に蟄居して固有の性質と現はすを得ず米商會社の慣行に從ひ粒に價を得ずして俵に由りて名と取り遂に斯る不公平も生ずるなとなれば今この俵を解て武州米も奥州米も同じ筵の上に振ひ出し扨その米の中にて孰れか上米下米と一粒ずゝ撰びたらば下米にして武州の俵より出で上米にして奥州の俵より出るもの多からん優劣ともに各その真面目を現はしたるものと云ふべし斯の如くして優者は優者丈けに權力を保ち劣者は劣者相應にその分を守り又義の投書家の說の如く劣者ありとて優者と競爭すれば劣を變して優と爲し優劣相互に交代することもあるべし文明の進步として自由自在ならしめんとするには此外に依賴すべき方便なかるべしと知るべし左れば今日我國に於て僅に數箇所の港と開き、外國人に接する者は僅に少數の人に限り、外國人も公に眠食す可き住處は僅に掌大の區域に限り、其自由に運動すべき土地は僅に數里を界とし、其餘の內地は純然たる舊時の鎖國にして無數の日本國人は今日尚未だ外國人の面影を見たることなき者多し外國人は內地に人ありと聞き、內國人は外國に人ありと聞き互に之を耳に聞くのみにして目に見たることさへなき者が何として互に技倆の程を知る可きや唯漫然として外國人は強き者なり智惠逞しき者なりと聞傳て竊に之に遠慮するの情あれば外人は之に反して日本人は與し易き相手ならんと獨り合點し內外の優劣未だ試みずして既に定りたる者の如くに視做して一概に之と輕蔑せんとするが如きは正に今日の事の有樣にして此時に當て最も不幸なる者は國中優等の種族なるが故に今この輩をして直ちに外國人に接して優劣を試みしめんとするには大に內地を開て內外人の雜居を許し彼の上米下米の俵を同じ筵に振ひ出したるが如く日本全國一枚の筵に內外人を振ひ出し又混同して扨その上は自然の道理を以て優者と劣者との區別は精密に相分るべし外人必ずしも悉皆優あるにあらず內人必ずしも悉皆劣あるにあらず假令へ或は然ることもならんか優勝劣敗の原則は國の開鎖を以て左右すべきに非ず之と過慮して退くは進んで劣を變じて優たるの謀と爲すに若かず況や今日は實際に於て我鎖國中に埋沒する優者少なからずして此輩の爲に謀れば退縮は實に其人の働きと伸ばすの妨となる可きに於てをや國と鎖して兼て人才の働きをも鎖すが如きは不幸の甚だしきものと云ふべし德川政府の時代に天下の人物は諸藩の中に埋沒し世祿唯藩々の優劣と割へて其藩中個々の人物を問はず日本國中に智德甚だ乏しきが如くに見えしが王政維新と應し恰も藩々の鎖國を破りて各地方の才不才と擾攪混同せしむると彼の米の俵を解きたるが如くせしに前以て思寄らぬ處より有爲の人才を出して今の社會の面に立つ者甚だ多し故に今假に此大日本國とむかしの一大藩に喩へ其鎖國の風を止め其藩人として他藩たる諸外國人と擾攪混同するは人才を出すの捷徑あるべしと信ず聞くが如きは我政府は鎖國を好む者にあらず人民も亦雜居と憚るの色なし我輩は唯外國人が公平を旨として異議を容れず其事の實施を冀望するのみ

官報

○內務省告示第六十二號
本年(十月)第六十號告示ニ由リ撿査ヲ受クヘキ船舶ニシテ橫濱東京ニ航行スルモノハ神奈川縣下相州長浦ニ寄停シ撿疫官ノ撿査ヲ受クヘシ此旨告示候事
明治十八年十一月二日　內務卿　伯爵山縣有朋
(本年十一月二日官報號外)

雜報

○行軍　大阪鎭台砲兵第四聯隊は第一第二大隊(野砲隊兵)は丹波福知山へ第三大隊(山砲兵)は紀州を經て大和地方へ孰れも來る十一月六日大阪出發にて五日間の長途行軍を行ふ筈ありと

○營所新築　陸軍省にては來る十九年四月より熊本縣下熊本の花畑へ歩兵二大隊を入るべき營所と新築するに付其入費金十萬圓又福岡へ歩兵第一大隊入るべき營所を新築する費用五萬五千圓と同年度豫算費より支出すべき事に定めたりと

○外船碇繋の約束　從來神戸港へ出入する外國船中にて小野濱機械會社と船舶碇繋の約束を結びたるは彼阿會社のみありしが今度更に佛國郵船會社にても右同樣の約定をなしたるおもむき

○太陽黑點の實測　地理局氣象臺にてこの程太陽黑點第二回の實測をなせしよしなるが猶ほ近日晴雨の日と卜し第三回の實測を執行する筈なりといふ

○鐵製の橋材　大坂府にては今度諸橋と鐵製にて架設する筈にて天滿橋の鐵製用材は大坂砲兵工廠へ、常安橋、玉江橋、肥後橋、千代崎橋、淀屋橋等の鐵製橋杭は神戸造船所へ注文したるよし

○金澤製糸場　同場はもと私立にて加越能三州の繭は太抵同所にて糸に製し販賣する事なりしが近年物價變動の爲め屢々損失を蒙り製糸場維持の方法に困難せしがもし同所閉場となるに至らば地方繭の販路も塞り養蠶者の困却を來すのみならず從來同場にて使傭せし數百の工女も取あへず糊口に差支ゆるに付縣廳にては彼是と心配し遂に縣廳にて引受くる事となり養蠶製糸の業に名を得たる大聖寺の丹羽敬太郎氏と場長に命し三州各村の繭は勿論上州等よりも澤山に買入れ操取せし製糸をこの程同場掛員小池和四郎氏が賣捌の爲め携帯して橫濱へ赴きたりと同地よりの報に見ゆ

○船客の多少　去月廿六日神戸解纜の汽船は近江丸(日本郵船會社)と三邦丸(清輝社)との二艘にて近江丸の乘客は六十餘名、三邦丸には八十餘名の乘込みなりしよしなるが是は右清輝社の賃銀は(下等)四圓二十錢にて郵船會社に比すれば現に一圓三十錢も低廉なりしに因るものなりと云ふ(本年十月廿八日の大坂日報)

○生糸輸出入　去る十月中橫濱へ輸出入并に取引せし生糸は左の如し

外國輸出　千三百七十個○商館引込　二千四百九十八個、同へ…
十九個○屑…
千二百七十二…

○紀州フランネ…
フランチルと近…
るが昨今は非常…
同地各製造所と…
にて數十人の仕…
ろの仲買中には…
り諸方を奔走し…
諸方へ輸出…
なりしに今年は…

○花馬共進會…
の產出と以て…
進步の效と見…
るに隨ひ同地…
いよ〳〵進て…
十二箇村の牝馬…
十二箇村有志…
六十四頭即…
査と下したり…
は右の馬と一…
閱て列と成し…
けるは廐に配…
校の廣庭に於…
與は烟火と…
者より申越し…

○アラビヤ人…
食が横濱の居…
りしが本年十…
我締盟國の臣…
輩の望みに任…
あり俄阿會社…
之と送達する…

○二座　新富…
都八阪劇場に…
つ京都に赴か…
有ふ著しき差…
る取込み居る…
を所望するの…
て開場せんと…
もありて協議…
ふ九藏が出勤…

○寶澤屋宮川…
て二三年前よ…
頗る美麗にし…
あとなければ…
外套の表金五…
十圓外套の襟…
扣布の細着及…
り製しるもの…
する束髮の…
珠を鏤め花鳥…
直段なりと云…

○飛龍丸　函…
發し其乘組員…